

学力テストの結果について（国語）

1、結果の概要

昨年度の学力テストは平成 26 年度第 4 学年の 3 学期に実施しました。

「漢字の読み」「文法・語句に関する知識」「文学的な文章の読み取り」「説明的な文章の読みとり」については、習熟基準を上回りました。しかし、「漢字の書き」「作文」については、僅かではありま
すが習熟基準を下回り、課題が残りました。

2、結果の分析と解説

番号	問題の内容	学 年	領域	解答形式	習熟 基準 (%)	正答率 (%)	
一. 漢字		漢字の読み・書き					
1	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	87	84	
2	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	97	96	
3	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	98	97	
4	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	99	96	
5	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	86	85	
6	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	99	100	
7	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	99	100	
8	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	99	97	
9	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	99	99	
10	漢字の読み	3,4	漢字	短答式	98	99	
11	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	74	94	
12	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	94	96	
13	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	73	82	
14	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	77	82	
15	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	65	55	
16	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	78	90	
17	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	95	97	
18	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	81	88	
19	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	91	90	
20	漢字の書き	3,4	漢字	短答式	82	84	
漢字の書き					【平均】	89	91
【校内達成率】 ※習熟基準に達している児童の割合					82		

【分析と解説】

概ね習熟基準を達成することができました。漢字の習得を確実にしている児童も増えていきます。計画的に、繰り返し指導を行っていることが一つの要因と考えられます。ただ、細かく見ていくと読み書きともに、達成率が半々になっています。漢字ステージドリルを活用するとともに、読書量を増やし、漢字を使って文を書く機会を保障するなどの手だてもとりながら、漢字の読み書きの力を伸ばしていきます。

二. 言語事項 | 文法・語句に関する知識

21	主語・述語の意味を知り、文の中での働きを理解することができる。	3,4	言語事項	選択	80	66
22	修飾語の意味を知り、文の中での働きを理解することができる。	3,4	言語事項	選択	78	75
23	接続語の働きを理解し、適切に使うことができる。	3,4	言語事項	選択	97	100
24	伝聞と推量の意味の違いについて理解し、正しく使うことができる。	3,4	言語事項	選択	71	73
25	指ししめす言葉（こそあど言葉）の使い分けについて理解している。	3,4	言語事項	選択	84	78
26	漢字の音訓の違いについて理解している。	3,4	言語事項	選択	71	61
27	漢字を構成する要素に部首があることを知り、部首の名前を理解している。	3,4	言語事項	選択	93	93
28	多義語について理解し、文の中での意味を使い分けることができる。	3,4	言語指導	選択	80	80
語句に関する知識 【平均】					82	78
【校内達成率】 ※習熟基準に達している児童の割合					70	

【分析と解説】

概ね習熟基準を達成しています。今後も、漢字の読み書きだけでなく、漢字のなりたちや部首なども意識して覚えるような活動を授業に取り入れ、それらを繰り返して復習する必要があります。

三. 読むこと | 文学的な文章の読み取り

29	文章の叙述をもとに、場面の移り変わりを読み取ることができる。	3,4	読むこと	選択	54	40
30	文章の叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3,4	読むこと	選択	62	58
31	文章の叙述をもとに、登場人物の考えを読み取ることができる。	3,4	読むこと	選択	70	60
32	文章の叙述をもとに、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3,4	読むこと	選択	72	64
文学的な文章の読み取り 【平均】					65	56
【校内達成率】 ※習熟基準に達している児童の割合					43	

四. 読むこと | 説明的な文章の読み取り

33	中心となる語や文に注意して、段落相互の関係をとらえることができる。	3,4	読むこと	選択	43	33
----	-----------------------------------	-----	------	----	----	----

34	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3,4	読むこと	選択	43	33
35	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3,4	読むこと	選択	36	37
36	細かい点に注意しながら文章を読み、文脈を理解することができる。	3,4	読むこと	選択	76	78
37	内容を大きくまとめながら文章を読み、筆者の意見を読み取ることができる。	3,4	読むこと	選択	71	57
説明的な文章の読み取り 【平均】					54	48
【校内達成率】 ※習熟基準に達している児童の割合					48	
【分析と解説】						
<p>「文学的な文章」「説明的な文章」とも、正答率が習熟基準を下回る設問がありました。前回、国語の「読むこと」についての校内研究の成果を生かし、引き続き「読むこと」の領域について、指導法の改善に努めていきます。</p>						
五. 書くこと 作文						
38	決められた字数の中で、適切に書くことができる。	3,4	書くこと	論述式	77	79
39	考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。(二段落構成で書く)	3,4	書くこと	論述式	52	39
40	メモの内容を一つも落とさずに、見学の目的を書くことができる。	3,4	書く・活用	論述式	59	51
41	ていねいな言葉で、読み手を意識した文章を書くことができる。	3,4	書く・活用	論述式	34	30
作文【平均】					56	50
【校内達成率】 ※習熟基準に達している児童の割合					37	
【分析と解説】						
<p>この領域については、僅かですが習熟基準を下回りました。手紙の書き方や、日記・作文・新聞作り・調べ学習のまとめなど、いろいろな場面での「書く」活動を、今後も授業で取り入れて指導していきます。</p>						

3. 結果から明らかになった課題

今年度のテストは、「漢字の読み」「文法・語句に関する知識」「文学的な文章の読み取り」について習熟基準を上回り、「説明的な文章の読みとり」「漢字の書き」「作文」は僅かながら下回りました。

「漢字の書き」の中で正答率の低かったのは、普段学習で使用している漢字ステージの小テストの問題が、音読み熟語であったのに対して、送り仮名が伴う訓読みの出題だったことが、基準に達さなかった一因と考えられます。小テストを活用しつつも、テストで問われていない読みについても、本校で作成した「漢字ステージドリル」を使って、よりいっそうの習熟を図る必要があると考えられます。

「作文」は、全体的に習熟基準を下回りました。国語の「書くこと」の学習を中心に、全ての教科・領域で、文を書く機会を多く保障して、「書く力」の向上に努める必要があると考えられます。

また、正答率の高い児童とそうでない児童との隔りがあるため、個別指導や全体指導の中でも個に応じた指導を心掛けていく必要があると考えられます。

- ・ 「書くこと」の領域の指導を改善していく必要がある。
- ・ 正答率の高い児童とそうでない児童に隔りがあるため、個別指導を充実させる必要がある。

4、今後の改善・対策

【その1】【基礎基本の内容について達成目標を設定します。】

漢字や読み書きなどの基礎基本の内容について、昨年度の実態に応じて各学級で達成目標を設定します。また、その達成目標に迫るための手立てを各学級で実施します。

そして、学期末に達成目標に迫ることができているか評価を行い、手立てを検証し改善を図るとともに、効果のある手立てについては学校全体に広めていきます。

【その2】【漢字の指導体制を整備し、学期毎・学年毎に漢字の確実な習得を図ります。】

①昼学習の時間の設定

毎日、昼休みと5時間目の間に15分間の「昼学習」の時間を設定し、新出漢字の学習や小テストを行います。学期末にはその学期の漢字の総復習、年度末にはその学年の漢字の総復習を行い、確実な定着を図ります（下表：【昼学習計画】 数字は、漢字ステージの番号。）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月	平仮名	9	20・21	35・36	50・51・52	69・70
5月	平仮名	10・11	22・23	37・38	53・54・55	71・72・73
6月	平仮名	12・13	24・25・26	39・40・41	56・57・58・59	74・75・76
7月	1学期の復習					
9月	片仮名 1・2	14・15	27・28・29	42・43・44	60・61・62	77・78・79
10月	片仮名 3・4	16・17	30・31	45・46	63・64・65	80・81・82
11月	片仮名 5・6	18・19	32・33・34	47・48・49	66・67・68	83・84・85
12月	2学期の復習					
1月	片仮名 7・8	1年間の総復習				
2月	1年間の					
3月	総復習					

②全校での漢字期末テストの実施

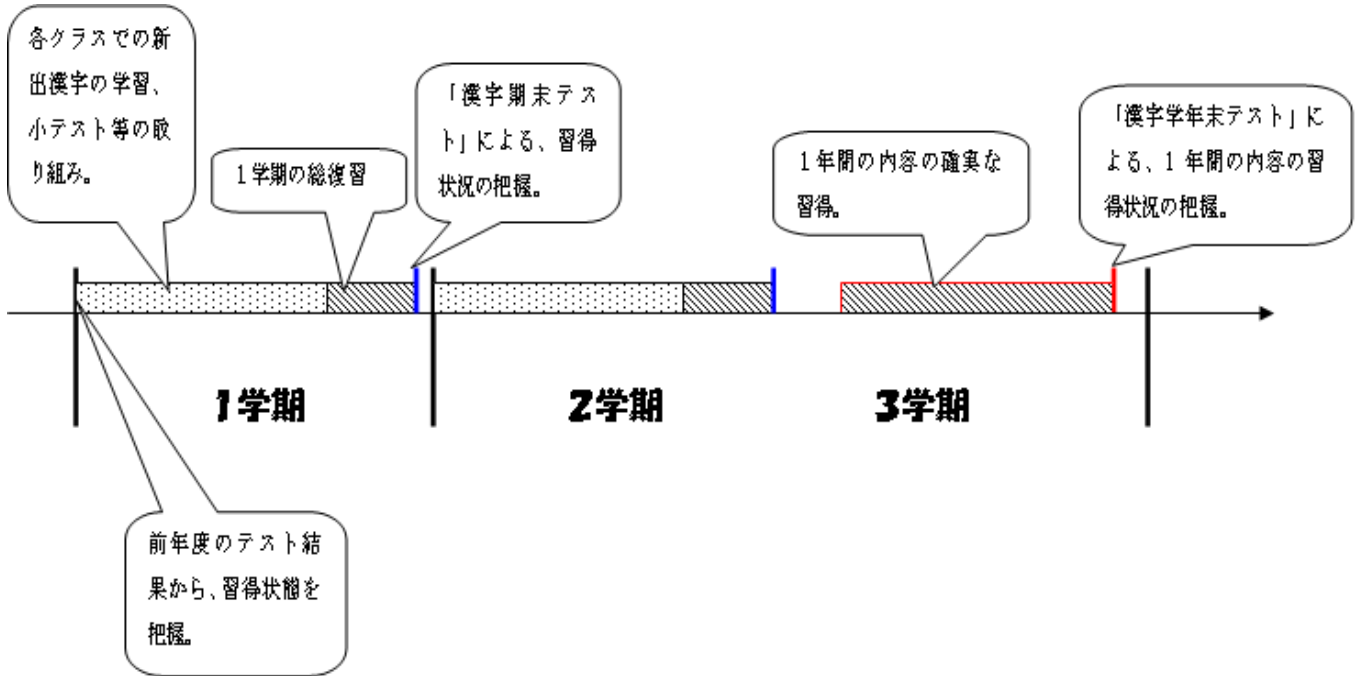
学期末に全学年で漢字テストを行い、その学期で習った漢字の習得状態を確認、確実に習得させます。5・6年生のステップアップ学習では、低・中学年の漢字で苦勞する児童もいます。習得した漢字は、文中で使ううちに定着してくるものですが、低・中学年でしっかり習得していなければ使う機会も乏しく、定着もしません。学期毎に確実に習得させることで、漢字の確実な定着を図ります。

また、全校で実施することで、児童の意識を高め、漢字学習の一つの目標とすることも狙っています。

一回のテストで終わるのではなく、スモールステップで進んだり、達成基準に届くまで繰り返したりと、達成感と漢字の習得の両立ができるよう、工夫していきます。

その3 【 第5・6学年で週 1 時間国語の基礎基本を徹底させる時間を設定します。】

【漢字指導体制の年間計画】



③独自の“漢字ステージドリル”の使用

全学年において、漢字ステージに準拠したドリルを作成・使用し、練習量を確保します。

第5・6学年では、ステップアップ学習の時間（金曜6時間目の半分）を国語の時間とします。

学習内容	漢字の学習をします。スモールステップ形式で3年生から6年生まで段階的に振り返ることができるプリントとそれに対応したチェックカードを使い、自分のペースで学習を進めることができますようにします。
------	---

※専科教員なども指導に加わり、個別の支援が必要な児童に対する指導を充実させていきます。

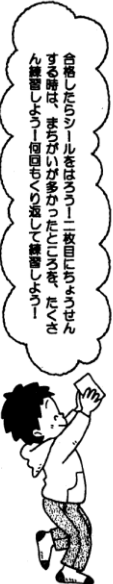
指導している内容

- ◎漢字
 - 訓読みの漢字
 - 送り仮名のある漢字
 - 似ている漢字
 - 同じ読みで使い方の違う漢字
- ◎言葉の組み合わせなど
 - 対義語・同義語
 - 非・不・未をつける熟語
 - 熟語や漢字の成り立ち
 - 敬語

- ◎文の構成に関すること
 - 主語と述語の関係
 - 修飾語と被修飾語の関係
- ◎音読

初見の文章を、すらすらと読むことができる。
- ◎暗唱
- ◎視写

大きさのそろった文字で10分間で300文字書くことができる。



3年⑩	3年⑨	3年⑧	3年⑦	3年⑥	3年⑤	3年④	3年③	3年②	3年①	合格
										1
										2
										3
										4
										5
										6
3年⑩	3年⑨	3年⑧	3年⑦	3年⑥	3年⑤	3年④	3年③	3年②	3年①	合格
										1
										2
										3
										4
										5
										6

漢字検定カード 三年 () 枚目 () 年 ()

その4 【読書活動の充実を図ります。】

読解力や語彙力の育成のために、その基盤となる読書の時間を充実させます。

1～4年生で設けている週1時間の「図書の日」や、金曜日の朝の時間の「読書タイム」を活用し、ブックトークや読み聞かせを行います。本に興味をもたせ、自ら読書に向かう姿勢を育てます。また、読書カード等で読んだ本の記録を残したり、読んだ本の紹介をしたりします。

【その5】 【辞書を使う習慣の育成を図ります。】

3年生以上の児童に一人一冊辞書を持たせ、分からない言葉があったときにすぐに調べることができる環境をつくります。国語に限らず、他教科の学習や学校生活の中でも、分からない言葉があったらすぐに調べるよう指導をすることで、辞書を使う習慣を育成していきます。

【その6】 【PTA との連携をとり、家庭学習の充実を図ります。】

漢字や、読む力、書く力をより確実に定着させていくためには、毎日の積み重ねが重要になってきます。学校で取り組むのはもちろんのこと、家庭学習での取り組みも一人一人の力を伸ばしていくためにはとても大切です。ご家庭での協力をいただきながら、基礎学力向上の促進を図りたいと思います。具体的には以下のような手だてを考えていきます。

(1) 家でも自発的に取り組めるようなプリントなどを日々の課題として配布します。

【課題の例】 一行日記・音読・漢字練習など

(2) すまいるスクールでの勉強会との連携を図り、復習問題に取り組ませます。

(3) 長期休業中には希望に応じて個人面談を行います。

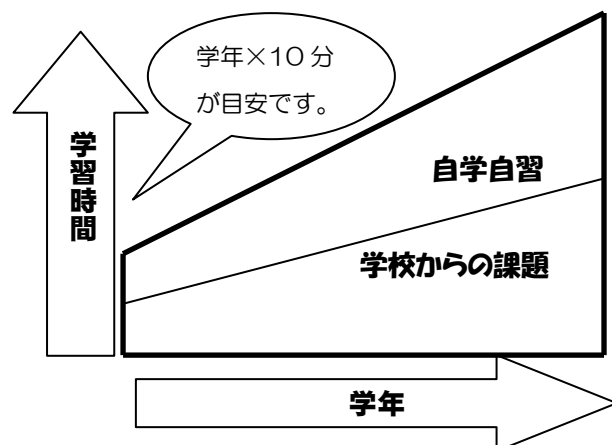
※ 保護者会でもお伝えしましたが、中学年以上では、新出漢字の学習については、学年が変わっても同じように学習ができるように、全学年でノート書き方を統一して指導しています。1冊目は学校で購入しましたが、2冊目以降のノートをご購入の際は、1冊目と同様のマス目のノートをご購入ください。

◎今年度も、PTA との連携により、「まなびノート」による家庭学習の取り組みを行います。

- ・保護者と児童の家庭学習の目標を各自設定し、シートに記入します。1日ごとに達成できたか振り返り、記録します。保護者や教師がコメントを入れることもあります。
- ・家庭学習の記録（自学）を「まなびノート」にまとめ、やった量が目に見える形にし、達成感を味わわせます。
- ・学年が上がるにつれ、家庭学習では自学自習の時間を増やしていきます。
- ・年度末に一度、「まなびノート」を続けて取り組むことができた児童を全校朝会で表彰し、意欲を高めていきます。意欲を高める手段として、PTA の“まなざしシート”を活用していきます。

～自学の例～（国語）

- ・その日授業で学習したことを家で復習する。
- ・授業で学習したことをさらに深める、広げる。
- ・自分の興味のあることを学習する。
- ・日記や、ニュースに対する自分の考えなどの文章を書く。



その7 【個別指導の時間を充実します】

子どもたち一人ひとりの苦手なところ、もっと伸ばしてやりたいところの指導をするために、放課後や長期休業中の個別指導の時間も充実させていきます。具体的には、月に一回程度、放課後にまとまった時間を確保する「補習日」を設定します。また、夏季休業期間を利用して、希望者に個別学習をする「サマースクール」を行います。

個別指導に際しては、ご都合の良い日などを前もって伺うこともあります。個別指導を通してより確実な定着と、学習への意欲を伸ばしていきたいと思えます。

5、学力検証の方法

《主な学力検証の内容》

- ① 各授業や単元の終了後に、子どもたちが目標を達成できたか確認し、次の授業に生かします。
- ② 漢字期末テストを実施し、個々の児童の習熟状況を把握します。学年末のCRTテストでは、昨年度の状況との変化を調べます。
- ③ CRTテスト（1～6年）・全国学力調査（6年）・都学力調査（5年）・品川区の学力テスト（4年）の結果をもとに本校での学力向上のための具体的な対策を立てていきます。
- ④ 検証した結果は、保護者会において保護者に説明します。